

## ODA 外交の成果と課題 -日・モンゴル関係の展望 - 清水武則

1. 私のモンゴルとの関係性：自称、九州のアルハンガイ出身。偶然で始まったモンゴルとの出会いが人生を捧げる対象に。関東軍としてハイラルに駐屯しシベリア抑留者で早逝した父親との不思議な縁など。

2. 民主化以降のモンゴル外交の評価：

(1) 抜本的発展は民主化以降だが、民主化以前の独自外交が諸外国（特に米国）の評価を受け、その後の日本のリーダーシップ発揮の土台を築いたと評価。

(2) モンゴル外交は、日本外交における成功事例だが、モンゴルに対する日本人の特別な感情、思いが成功を支えてきた。「人」を得てきたが、時代は、新しい日本人の世代へ。果たして、関係は発展するのか。

(3) モンゴルから得たもの（安保理入りへの外交的支援、北朝鮮の拉致問題、震災時の温かい支援など）

3. 日本の対モンゴル ODA の特徴と評価

(1) モンゴル支援の先頭を走った日本：国際支援国会合の開催、BHN 支援、インフラ支援から人材育成、そして、空港などの大型案件まで、モンゴル国民が直接間接に裨益した。

(2) 結果として、両国関係は「戦略的パートナーシップ」の関係まで発展し、モンゴルにおける日本への高い評価（世論調査結果の推移を説明）に結び付いている。

(3) しかし、ODA による両国関係の発展には限界があり（無償資金受け入れ国からの卒業、債務過剰国としての借款の受け入れ国としての課題など）、従来型の ODA の実施は不可能。新たな施策が必要な時代になっているが、両国政府に期待できるかどうか。どうすればいいか。

4. Post ODA の新たな時代における両国関係

(1) ODA 卒業、コロナ感染症、ロシアのウクライナ侵攻等のモンゴルへの影響をどう評価するか。

(2) ロシアと中国という独裁国家の蜜月時代に、両国に挟まれるモンゴルは民族の自決を維持できるのか。日本との関係性はどうなるのか。チャレンジの時代へ。

5. 外交官として忘れられない思い出（北国の春、太陽道路、屋根に木の生えた学校、草の根無償の奔走、空港案件のトラブル解決、EPA 締結後のはしご外しへの抵抗など）